

熱帯の森林害虫（20）

野 淵 輝

鱗翅目 11

スズメガ科 Spingidae (sphinx moths)

ほとんどの成虫は大形、美麗、体は太く、日中、薄暮、夜間に活発に強飛する。顕著な色彩模様で密着した鱗片に覆われる。複眼は顕著で裸体。触角は通常先端に太まり、先端が鉤状になる。雄では縁毛を付けるかまたは櫛歯状。口吻は著しく長いものから退化したものまである。鬚は存在する。翅は大形で細い。前翅は後翅より大形、陰色の場合には後翅は光輝がある。鱗毛を欠き透明の翅の種類もいる。翅刺はよく発達し前縁脈と径脈とは中央室の中央か直前で1横脈で結びつき中央室の末端まで平行に走っている。腹部は太く尾端に尖るか紡錘形。幼虫は大形で太く円筒状、表面は滑らかか顆粒あるいは疣を持つ。腹脚は尾脚を含み5対。通常第8腹節背面に尾角をそなえるが、痕跡的になったり、疣状になる種類もある。老熟すると土中の土莢内で薄い繭を作り蛹化する。

クロメンガタスズメ (*Acherontia lachesis* Fabricius) は東洋区から日本まで分布する。各種双子葉食物の葉を摂食する。幼虫は緑色で黄色と青色の斜の斑紋があり、スズメガ固有の尾突起をそなえる。インドとパキスタンでは *Melia azedarach*, *Spathodea campanulata*, チークを加害する。1

頭の摂食量は多いが、小径木を除き被害はさほど激しくない。北インドでは三化性、幼虫で越冬し、土中で蛹化する。メンガタスズメの原亜種 (*A. styx* Westwood) は小アジアから東洋区に

分布する。幼虫は体長8cmに達し、明るい緑色あるいは暗緑色で斜帯と曲がった尾突起をそなえる。インドとパキスタンでは *Spathodea campanulata*, *Syzygium cuminii*, チークを加害するが、ほかの双子葉植物にもつく。幼虫の摂食量が多いので、小径木での被害は激しい。卵は緑色を帯びるが、次第に橙黄色に変る。土中で蛹化する。インドでは年数世代を繰り返し、蛹で越冬する。マラヤでは野菜にかなり多く、1世代は約44日で、卵、幼虫、蛹期間はそれぞれ約5,

図-1 クロメンガタスズメ幼虫 (KALSHOVEN より)

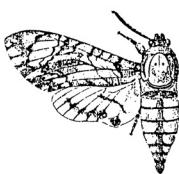


図-2 メタンガタスズメ成虫 (BEESON より)

21, 18日である。*Cephonodes hylas* Linnaeus は旧世界の熱帯から亜熱帯に広く分布し、アカネ科の葉を摂食する。幼虫は均一な淡緑色で生育すると幅広い黒色の縦帯をそなえる。終齢幼虫は橙赤色ないしチョコレート色で背面に暗色の帯と背側面に黄白色の縞が

あり、気門は赤く縁取られる。ガーナ、タンザニア、マラヤではコーヒーのマイナー害虫とされている。*Adina cordifolia*, チーク, *Xylia xylocarpa* を加害するが、ナイジェリアでは *Nauclea diderrichii* について記録がある。インドでは春期に幼虫と蛹期間はそれぞれ3週間である。*C. picus* Cramer は東洋区に分布し、アカネ科の葉を食う。幼虫は体長6~7 cm に達し、主に緑色で背線は青白色である。インドネシアとマラヤではコーヒーの害虫であるが、インドでは *Adina cordifolia* の葉を食害する。成虫は夜間に非常に早く飛翔する。幼虫は若葉を好むが、旧葉、果実の外皮や小枝の若い樹皮なども食う。蛹化は土中やまれに落葉層中です。マラヤ、スマトラ、ジャワで大発生したことがある。*Deilephila nerii* Linnaeus はアフリカ、南アジアに分布する。時にイギリスに迷い込むことがある。成虫の開張は9~11 cm。幼虫は12~15 cm になり、色彩は変化に富み、通常淡青緑色で黄緑色のぼかしが入り、白色の斑紋がある。短い曲った尾突起をそなえる。キヨウチクトウと *Rauwolfia* のマイナー害虫として知られているが、多食性で各種の双子葉植物の葉を加害する。ウガンダでは *Burttadavia nyasica*, *Mitragyna stipulosa*, *Thevetia peruviana* が加害樹にされている。年数世代を繰り返し、蛹で越冬する。卵は葉や葉柄に1粒ずつ産下される。幼虫は若く柔らかい葉を好むが、次第に全組織をむさぼり食うようになる。また花も食う。刺激されると威嚇の姿勢をとる。老熟幼虫は地表面で褐色の絹糸で落葉や腐植を綴りつけた繭を作る。苗畠で激しい被害が発生する。*Polyptychus* 属の種類は熱帯アフリカとアジアに分布し、双子葉植物の葉を摂食する。ウガンダでは *P. pygarga* Karsch が *Maesopsis eminii* の葉を加害し、インドでは *P. trilineatus* Moore が通常ムラサキ科の葉を食害する。1世代約53日で、卵、幼虫、蛹期間はそれぞれ約5, 30, 18日である。西ナイジェリアでは、この属の未同定種が *Triplochiton scleroxylon* を加害している。*Psilogramma menephron* Cramer はスリランカ、インド、パキスタンからオーストラリアまで広く分布し、双子葉植物の樹木や灌木の葉を食う多食性の害虫で *Casuarina* spp., メリナ、*Melia azedarach*, *Spathodea campanulata*, チークなどの加害樹が記録されている。インドでは時にメリナとチークに多発する。年1世代で、成虫の発生と蛹化は不規則である。*Sataspes* は東洋の属で双子葉食物の葉を食う。*S. infernalis* Westwood は、*Albizia lebbeck* など、*S. scotti* Jordan は *Dalbergia sissoo* につく。*Theretra nessus* Drury は東南アジアからオーストラリアで双子葉食物の葉を食害し、インドでは *Pongamia pinnata* を加害し、落葉層中で蛹化する。

シャチホコガ科 Notodontidae (prominent, puss moths)

成虫は中形ないし大形。体色は陰気な灰色あるいは褐色。鱗毛と毛に覆われる。口吻は明瞭かないしは退化する。触角は雄では櫛歯状。後脚の腿節は長毛を装う。前翅の後縁には背方に突出する毛房をそなえる種類もいる。前翅の肘脈は3分岐する。後翅の亜前縁脈と径脈は分離している。腹部は毛深く尾毛束をそなえることがある。卵は淡色で丸い。幼虫は円筒状で4対の腹脚をそなえ、尾脚は変形するか、あるいはこれを欠く。体表面は背瘤、疣、触糸や刺をそなえ、鮮明色の条紋をそなえる。ある種では静止の際、腹

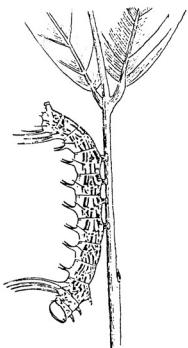


図-3 *Dudusa robilis* 幼虫
(KALSHOVEN より)

脚だけで止まり、前方と後方を上げる。

Desmeocraera cyprianrii Berio はナイジェリアのサバンナ地域に普通で、双子葉樹木の葉に集合して加害する。*Eucalyptus camaldulensis* と *E. deglupta* の若い造林地で激しい失葉被害を発生させたことがある。*D. varia* Janse は熱帯アフリカに分布し、双子葉植物の葉を食う。ウガンダではグアバに普通であるが、造林地で突然的に発生する。被害は疎林に限定され、広がらない。被害木は衰弱し、二次性害虫に攻撃されるようになる。ウガンダでは *Eucalyptus deglupta* のほか各種のユーカリ類や *Acacia cyanophylla* を加害したことがある。*Dudusa nobilis* Walker は東洋区に分布する。成虫は大きく開張 7.5~10 cm、褐色で前翅に暗色の斜帯をそなえる。幼虫は 10~11 cm になり、突出した刺をそなえ、通常 *Schleichera trijuga* の旧葉を摂食する。繭を作らず土中の穴で蛹化する。インドでは 1 化性で、蛾は 6 月に出現し、幼虫期間は 7~10 月であるが、ジャワでは世代が重複し、年中幼虫が見られる。*Neocerura liturata* Walker は東洋区に分布し、基本的にはイギリ科の葉を加害するが、インドではボプラや *Terminalia tomentosa* にもつく。幼虫は胸部に鈍い刺と末端節に長い先細の刺状突起を持った奇妙な形態をしている。老熟幼虫は小枝や樹冠に浅い卵型の穴を掘り、扁平な繭内で蛹化する。成虫は昼行性。ジャワでは世代長が 40~50 日で、インドでは 7 月に蛹期間が 23 日とされている。*Neopheosia excravata* Hampson はインドに生息する。幼虫は体長約 30 mm に達し、ピンク色で長い曲った尾突起と胸部と腹部に若干の短い刺をそなえ、*Anogeissus latifolia* の葉を食害し、蛹化は土中の堅い繭内です。*Phalera raya* Moore はインドとミャンマーに分布し、双子葉植物の多食性の食葉性害虫で、*Cassia fistula*, *Ougeinia dalbergioides*, *Quercus serrata* などに被害がある。*Stauropus alternus* Walker は東洋区に広く分布し、英名を lobstar caterpillar と呼ぶ。成虫は開張 4~6 cm の灰色の蛾である。幼虫は脚が長く奇妙な形をし、驚くと威嚇姿勢をとる。スリランカ、インド、ジャワでは茶の害虫とされ、双子葉植物につく多食性の害虫で *Acacia catechu*, *A. dealbata*, *A. mearnsii*, *Albizia chinensis*, *Cassia fistula*, *C. javanica*, *Grevillea robusta*, マンゴ、*Ougeinia dalbergioides*, *Palaquium gutta*, *Syzygium cumini*, *Tamarindus indica*, *Trewia nudiflora*, *Xylia xylocarpa* などの加害樹が知られている。成虫は夜行性で、雌は不活発に飛翔し寄主の葉に産卵する。蛹化は絹糸で綴った葉の中や小枝上です。世代長は南インドやスリランカでは 6~8 週間で、卵、幼虫、蛹期間はそれぞれ約 1, 4~5, 3 週間である。スリランカで大発生したことがある。*Stenadonta radialis* Gaede はインドで幼虫が *Dendrocalamus strictus* の葉を食い、南西モンスーン期に活動する。蛹期間は 6~7 日である。